

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 69 号

発行日 2026.02. 15
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyu17@outlook.jp

○リベラルの瓦解？革新(性)・理想(主義)の浮遊？

本日(8日)は、まさに歴史的な日であるかもしれない(↓否、そうだった?)！詳しいことは書けないが、今回の衆議院選挙は、事前の予想以上に、大変な事態となった(与党/自民党の大圧勝に終わった！そして、政党の興隆/衰退の二極分化がさらに進んだ!)!!これが、新たな政治の潮流を、確実に生み出す起点となるのかどうかは、今後の推移を見守る他ないが(一部、以前の状態で逆戻りというような要素もないわけではない)、他方では、レットテルとしての「リベラル」の瓦解、あるいは「革新(性) / 理想(主義)」の浮遊が進んでいるとも言えるのではないかと!!そこで、ここでは、この後者の問題について、少し敷衍しておきたい!

要は、いわゆる「保守対革新」という構図あるいはイメージ枠(尤も、それらは、メディアが無理矢理示し続けているとも言えるが)、最早意味をなさなくなったのではないかということである(理解としては分かり易かった?)!あるいは、少し意味合いが違うが、本当は絶対に価値ある「リベラル/リベリズム(自由)や「革新(性)」「理想(主義)」というものが、特定の党派のみの属性に賦与させられてきた弊害(まやかし?)が、完全に露呈してしまったということである(歴史的には、その正当性?はあったが、既に色褪せていた?)!!すなわち、言うまでもなく、それらは、その時々々の状態によって、その意義や価値が賦与される!!つまり、何のためのそれなのか、常に現前の「現実」から導き出されるということである!いくら崇高な理念であっても、それらを標榜する人物(群)やプロセスが、実際はそうならないならば、それらは、多くが見せかけに終わるということである!!

○「祀り事(宗教)」と「政り事(政治)」の関係!

ところで、私は、「祀り事(宗教)」と「政り事(政治)」の関係(表裏一体性?)について、一言を有している(ちよつと言いつ過ぎか?笑!ちなみに、語源的には、両者は同じものとされていることは、周知の通りであり、しかも現代においても、その両者の関係性(存在意義?)は、至るところに散見される(政治家の神社参拝もそうである?)。その意味では、「まつりごと」は、永遠に生きていくということである!現在、「宗教」と「政治」は、一応「政教分離」ということで、現代社会(近代国家)においては峻別されているが、根っ子の部分では、緊密に結びついているということでもある!!ある意味、我が国の「天皇制」とは、その象徴でもあるということである!!

いずれにしても、ここで言いたいことは、その双方共に、我々の社会には必須のものであり、その双方の関係を、いかに位置付け、互いの存在を意義あるものとしていくかが、重要であるということである!問題は、どちらかが、どちらかを、一方的に否定したり、介入・弾圧したりすることが、往々にしてあることである(歴史的にはそうであった!)。これは、今回の、ある政党集団(野合勢力?)が持ち出してきた「中道」ということにも関わるが、その「中道」という意味は、個々人の生き方(思想・信条)の問題であり、「政治」という、それらを超越した、現実の諸問題を処理していく(議論し、解決していく)社会的プロセス(システム)とは、別次元の世界である(言動の精神的支柱としたりすることはあっても!)。だから、その分別(区分け)は、絶対に必要なのである!

○「VUCA時代」の「持続可能な社会の創り手」づくり!

次に、ここでは、少し紹介が遅くなってしまうが、かのVUCA (Volatility / 変動性, Uncertainty / 不確実性, Complexity / 複雑性, Ambiguity / 曖昧性)の時代における教育のあり方について、改めて参考になる論稿『教員養成セミナー』1月号「キーワード&図で読み解く!現代の教育課題」を見つけたので、それを紹介しておきたい。ちなみに、その「VUCA(ブーカ)」の内容については以前にも紹介したので、ここでは直接触れないが、これからの時代状況を表徴するキーワードであることは、言うまでもない!そこでであるが、同誌には、「これからの時代に求められる人物像としてよく語られるのが、『持続可能な社会の創り手』という言葉: 現行学習指導要領の総則に登場した後、『令和の日本型学校教育』を提唱した中教審の答申や『第4期教育振興基本計画』など、あらゆる資料に登場: 恐らく、次期学習指導要領にも盛り込まれる: それだけ重要な用語で、教採でもよく問われ: しかし、少し抽象的な言葉なので説明するのは容易では: 旧来型の日本の学校教育が、そうした人材を育てられるかと言えば、難しい: 子どもたちは日々、『正解のある問い』を解くことを求められ、学習とはそのようなものだと思えて: 『総合的な学習の時間』ですら、教師が提示した課題について調べ、まとめ、発表するなど、『正解のない問い』とは程遠い活動が数多く見られ:」とある。そして、『持続可能な社会の創り手』に求められる具体的な力として、次期学習指導要領に向けた大臣諮問には、『生涯にわたって主体的に学び続ける力』『多様な他者と協働する力』などが挙げられて: としてもう一つ、鍵を握るのが『当事者意識』という言葉で、OECDが2019年に取りまとめた『ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030』に登場する『エージェンシー』にも相通する言葉: 『誰かがやってくれる』ではなく、『自分がやる』と考え、主体的に行動・実践できる人材が求められて:」とあった。まさにそうであるが、それは、ある意味当たり前のことであって、今更言うべき事でもない?だが、それが、現在実しやかに言われている!残念であるが、ただし、それは、学校だけではやれない!そこが分からなければ話にならない!!(井上)

○「記紀」の裏返しから、本当のことが見えてくる!!

○結局は、孤立無援の状況に陥る佐賀真人?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕699

前号(68)及び今号の表面では、まさに「政治」に關する話題に終始しているようにも思うが(実は、そうではない)、ここでは、私(堂本)の、もう一つの関心事である「古代史」についての大胆な?推論を、改めて披歴しておきたい!それは、通説はともかく(またまた真偽がはっきりしないものが多い)、**「本当はどうであったのか?」**というところに、もちろん繋がることではあるが、一方では、個々味、感動ものであった!おそろくそれは奇跡に近い!!)だが、の事実(主として考古学から得られるもの)を、それこそ精緻に解明する努力が必要であるが、他方で、多くの史料(文史に残されるであろうが、思い出すのは、明治維新の際の献や、それについての研究成果があるにも拘らず、何故、「佐賀の乱」で散った、同郷(私は、佐賀ではなく、唐津出身)は、どうも、同県出身の人間は、何故か?孤立無援(孤軍奮闘?)の状況に陥ることが多い!その理由は、客観的には示せないが(実は、今では分かってるが?笑!)、若干、我が身を重ねる次第である!だしては、この限りではないということ、ここでは確認が、まだまだチャンスはある?少なくとも、もう一度だけしておきたい!ということ、ここで書き記しておきたいことは、とにかく、これまで史実解明の基本(支柱?)であった「記紀」が、残念ながら、本当の史実を誠実に示しているものではないということである(たとえ「正史」という呈であつても!)!また、そもそも、『古事記』と『日本書紀』は、まったく別の目的で、しかも、それなりに利害を異にする氏族(勢力)が、それぞれに書き残している代物であるということである!前者が「多氏」族、後者が「持統・藤原不比等」勢力ということである(この辺りは、かなりの程度明らかになりつつある?)!!

○続いて、「日向(三代)神話」を探る?ーその3ー
ここで、さらなる鍵を解くべく(ここでは、次の「ウガヤフキアエズ」についても深掘りしておきたい。とにかく、この人物(神)の出生譚、否成長譚は(多?)、極めて怪しく(通常ではあり得ない?)、それ故に、逆に重要な暗示話ともなっている!具体的には、母親(豊玉姬)が、何と「鰐守メ」であること、その出産時に、夫(ホオリ/ヒコホホデミ)山幸彦からその正体を見られたことによつて「育見(放棄)」、妹の玉依姫に育見を委ねるをしたこと、そして、何より、その育ての母(叔母)である「玉依姫」と結婚していること等々、何から何までおかしいのである(常識では理解出来ない!というところ!)!

ただし、それが正当な(真実を導く)アプローチであつても、まだまだそこに行き着いていないという研究成果について、この限りではないということ、ここでは確認が、まだまだチャンスはある?少なくとも、もう一度だけしておきたい!ということ、ここで書き記しておきたいことは、とにかく、これまで史実解明の基本(支柱?)であった「記紀」が、残念ながら、本当の史実を誠実に示しているものではないということである(たとえ「正史」という呈であつても!)!また、そもそも、『古事記』と『日本書紀』は、まったく別の目的で、しかも、それなりに利害を異にする氏族(勢力)が、それぞれに書き残している代物であるということである!前者が「多氏」族、後者が「持統・藤原不比等」勢力ということである(この辺りは、かなりの程度明らかになりつつある?)!!

とほやえ、もちろんこれは、人間社会とは別界である神々の話(神話)であるので、ある意味他愛のない作り話ではないかと、一蹴される向きもあるかもしれない!だが、もし、これが、ある史実の暗喩(ただしかなりデフォルメされている)であることが分れば、これは、そう簡単にはいかない!しかも、その元ネタと思われる実際の史実が、そこに被せられているわけでもある(当然であるが、まったくの白紙からはたさ神話「ファンタジー」であっても、創り出すことは難しい!)!何故なら、そこには、本當らしさが必要であるからである(どうでなければ、相手にされない!)!

だがそれ自体は、絶対に必要!
・「祀り事(宗教)」と「政り事(政治)」!
その一体性(表裏一体)を意味あるものに!
・「記紀」の裏返しから、本当のことが見えてくる!!
これが案外、近道となる!!

例えば、南九州方面には、その史実らしき伝承や史跡が目白押しである!具体的には、「ヒコホホデミ(ホオリ)山幸彦」を祀る「青島神社」やウガヤフキアエズを祭神とする「鰐目神社」(宮崎県)、そして、後者の墓所とされる「吾平山上陵」(鹿児島)等である!とにかく、それらは、真実であるかどうかはともかく、ここで言う「日向(三代)の物語」と直結させられており、その本當らしさが演出?されているわけである!!であれば、その真実とは何か?それは、「海神(たみ)」(安曇族) || 「ワニ族(和邇氏)多氏(三輪氏等)」と「カモ(鴨)族(賀茂臣・朝臣氏/賀茂直氏等)」と「山祇(かみかみ)」(火明(ホオリ) 饒速日(ニギハヤヒ)系(物部氏/尾張氏/海部氏等))との集散離合の姿・形と考えられる!!(つづく)

・「記紀」の裏返しから、本当のことが見えてくる!!
これが案外、近道となる!!
・何故か孤立無援に陥る 佐賀真人?
でもそこに義があるならば、それでよし!!

〈編集後記〉改めて、慌ただしい期間が過ぎた!一応、国民が選んだ結果なので、その責任?はそれにあるが、政治にしろ、経済にしろ、そして、教育にしろ、大きな変革が待ち受けていることは確か!!だが、密かな期待もある!! (井上/堂本)